

皆がともに一つに

コリント人への手紙第一 10章 14-22節

はじめに

今日の聖書箇所之初めには、「**偶像礼拝を避けなさい**」とあります。使徒パウロは、偶像礼拝の恐ろしさを教えるために、キリスト教の聖餐式と偶像礼拝を対比させます。

1. 聖餐式とは？

私たちの教会では、毎月第一主日（日曜日）に聖餐式を行なっています。聖餐式で用いられるぶどうジュースは、イエス・キリストが十字架で流された血を表し、パンはイエス・キリストが十字架で裂かれたからだを表します。

聖餐式では、イエス・キリストの血とからだを表すぶどうジュースとパンを見るだけではなく、実際に飲んで食べます。飲んで食べるということは、イエス・キリストの十字架を受け入れるということを意味します。もっと言えば、私たちのために十字架に架かってくださったイエス・キリストの愛を受け入れるということを意味します。

イエス・キリストはなぜ十字架で血を流し、からだを裂かれたのでしょうか？それは、私たちの罪が赦されるためです。

先週の聖書を読む会で、「罪とは何か」ということについて話し合いました。一般的な日本人は、罪とは警察に捕まるような犯罪を犯すことと考えます。しかし聖書で言う罪とは、神様の律法に背くことです（Iヨハネ3：4）。神様の律法は、「十戒」に要約してまとめられていますが、それは、唯一の神様を信じ、神様だけを礼拝して生きること、自分自身に満足し、身の回りの人を愛して生きることです。その意味では、唯一の神様を信じないこと、神様を礼拝しないことは罪であり、不平不満を言って身の回りの人を傷つけ、無関心でいることは罪です。

私たち人間は誰でも、神様の律法の前に言い逃れはできません。たとえ警察に捕まるような犯罪を犯していなくても、神様の律法に背いていれば、神様の前では罪人なのです。罪人は裁かれなければなりません。

しかし神様は、私たちの罪を赦し、裁きから救うために、ご自身のひとり子イエス・キリストをこの世に遣わされたのです。それは、私たちを愛しているからです。イエス・キリストも、私たちの罪が赦され、裁きから救われるために、自らのいのちを犠牲にして、十字架に架かられたのです。私たちに対する神様の裁きを身代わりに受け、私たちの罪を

償うためです。

しかし私たちは、イエス・キリストが十字架に架かれたからといって、自動的に罪を赦され、裁きから救われるわけではありません。私たちは、イエス・キリストの十字架に、また神様の愛とイエス・キリストの愛に応答しなければなりません。

では私たちはどのように応答すればよいのでしょうか？それは第一に、イエス・キリストに人生を委ね、信頼しますと口で告白することです。第二に、洗礼を受けることです。第三に、聖餐式に与かることです。イエス・キリストの十字架に、また神様の愛とイエス・キリストの愛に応答した者だけが、罪を赦され、神様の裁きから救われるのです。

聖餐式は、イエス・キリストの十字架とイエス・キリストの愛に対する私たちの応答の一つです。ぶどうジュースとパンを食べることによって、イエス・キリストが私のために十字架で血を流し、からだを裂いてくださったことを受け入れます、イエス・キリストの愛を受け入れますという応答なのです。

2. 聖餐式にあずかるとは？

16節にあるように、私たちがぶどうジュースを飲むことは、「**キリストの血にあずかること**」を意味します。また私たちがパンを食べることは、「**キリストのからだにあずかること**」を意味します。この「あずかる」という言葉は、ギリシア語の「コイノニア」という言葉で、「交わり」を意味します。私たちは聖餐式にあずかることによって、イエス・キリストとの「交わり」の中に入れられます。

「交わり」と言っても、少し抽象的なので18節も見てください。18節には、イスラエルの民の祭壇の食事について書かれています。イスラエルの民は、動物のいけにえを祭壇にささげ、それを皆で食べたのです。その時には、「**祭壇の交わりにあずかることになる**」と書かれています。ここでの「交わり」という言葉は、「仲間になる」「友達になる」という意味です。

私たちが聖餐式にあずかることによって、イエス・キリストとの「交わり」の中に入れられるとは、イエス・キリストの仲間になる、友達になるという意味です。

イエス・キリストは私たちの友達となってくださいました。イエス・キリストはこう言われました。「**人が自分の友のためにいのちを捨てること、これよりも大きな愛はだれも持っていません**」(ヨハネ 15:13)。イエス・キリストは、私たちのために十字架でいのちを捨て、私たちに最高の愛を示し、私たちの友達、仲間になろうとされたのです。

聖餐式は、イエス・キリストと私たちの友情の証です。私たちは聖餐式のぶどうジュースとパンを食べる時、イエス・キリストの友達、仲間となるのです。

聖餐式にあずかることは、イエス・キリストと友達、仲間になるだけでなく、共に聖餐

式にあずかる教会のメンバーとも、友達、仲間になるのです。17節には、「**パンは一つですから、私たちは大勢いても、一つのからだです。皆がともに一つのパンを食べるのですから**」とあります。私たちは、キリストのからだである一つのパンを皆で分け合うことによって、私たちは一つのキリストのからだとなるのです。私たちは、キリストのからだであるパンを食べることによって、私たち一人一人もキリストのからだの一部とされるのです。教会のメンバーは、同じキリストのからだの一部です。私たちは、聖餐式にあずかることを通して、イエス・キリストと友達、仲間になるだけでなく、教会のメンバーとも友達、仲間になるのです。

3. 偶像礼拝の恐ろしさ

聖餐式は、イエス・キリストと私たちを友達、仲間とし、教会のメンバーと私たちを一つにするものです。

偶像礼拝は恐ろしいものです。なぜなら偶像礼拝は、悪霊と私たちを友達、仲間とするものだからです。

コリント教会のクリスチャンたちの中には、偶像に献げた肉を偶像の神殿で食べる人たちがいました。彼らはそれを偶像礼拝だとは思っていませんでした。なぜなら彼らは、偶像の神なんて実際には存在しないし、存在しないものに献げられた肉はただの肉だから、食べても偶像礼拝にはならないと考えていました。実際彼らは、イエス・キリストを通して唯一の神様だけを信じ、偶像の神など一切信じていなかったからです。

しかしパウロは、いくら偶像の神を信じていなくても、偶像に献げた肉を神殿で食べることは偶像礼拝になるのだと言うのです。なぜなら、偶像に献げられた肉は「**悪霊**」に献げられたものだからです。確かに偶像の神は実際には存在しません。しかし「**悪霊**」は実際に存在します。悪霊は、私たち人間を惑わし、実際には存在しない偶像を神として礼拝させようとするのです。偶像の背後には、悪霊が存在するのです。その意味で、偶像に献げられた肉は悪霊に献げられたものなのです。そして偶像に献げられた肉を食べることは、悪霊と友達、仲間になることなのです。

私たちが住んでいる日本は、八百万の神が存在すると信じられています。神様は沢山いると多くの人が信じています。しかし私たちは、神様はただお一人しか存在しないと信じています。それは、三位一体の神様です。

しかし私たちは、神様はただお一人しか存在しないと信じるだけでよいのでしょうか？ 私たちは様々な場面で、異教の儀式を強いられることがあります。その時に私たちは、外面的に形だけ合わせようとするところがあるかもしれません。心は三位一体の神様にあるのだから、外面的に形だけ合わせるのは偶像礼拝にはならないと考えるかもしれません。しかし私たちは、異教の儀式の背後には、悪霊が存在することを忘れてはなりません。たと

え外面的に形だけ合わせる行為でも、悪霊の友達、仲間になる、異教の信者と一つになることも忘れてはなりません。外面的に形だけ合わせる行為でも偶像礼拝になることを忘れてはなりません。

おわりに

偶像礼拝はなぜ避けなければならないのか、それは 22 節にあるように、「**主のねたみを引き起こす**」ことになるからです。イエス・キリストは、私たちがねたむほど愛しています。

イエス・キリストはその愛を、十字架で表し、聖餐式において表しておられます。イエス・キリストは、ご自身の愛に私たちが応答することを求めておられます。イエス・キリストはこう言われました。「**わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしいものではありません。わたしよりも息子や娘を愛する者は、わたしにふさわしいものではありません**」(マタイ 10:37)。イエス・キリストは、私たちが何よりも誰よりもイエス・キリストを愛することを求めておられるのです。

私たちは、イエス・キリストの愛にどのように応答しているのでしょうか？ただ愛されている、そのことに満足して、聞き流し受け流すだけでしょうか？イエス・キリストの愛を受け入れ、その愛に応答する者だけが罪を赦され、救われるのです。

イエス・キリストの愛はいつでも私たちに差し出されています。それは特に聖餐式において差し出されています。私たちがその愛に応えたいと思うなら、まずイエス・キリストへの信仰を口で告白することです。第二に、洗礼を受けることです。第三に、聖餐式にあずかることです。そして偶像礼拝を避け、何よりも誰よりもイエス・キリストを愛して生きることです。